

平成 25 年度 第 4 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

藤原 良一 栗島 聡 岡田 清久

Activity Report of SPM Research Committee

Ryoichi Fujihara Satoshi Kurishima Kiyohisa Okada

研究委員会では現在 9 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 25 年 8 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

プロジェクト計画立案のための要求整理方法を、QFD (Quality Function Deployment: 品質機能展開) の考え方を応用して検討しています。今年度は要件をプロジェクト成果物に整理するための方法を検討しています。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所, 大阪大学)

原則 2 か月に 1 回のペースで研究会を開催しています。プロジェクトに関わるリスクを中心に各会員が発表しています。現在, 新規会員を募集中です。分野を問わずリスクやリスク・マネジメントに関心・興味のある方大歓迎です。

<今後の予定>

次回例会は現在のところ未定です。詳細はお問い合わせください。

【問い合わせ先】 spm-risk@yahoo.co.jp

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクトに焦点を当てて研究会を行っています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試んでいます。

・7月19日: 研究会開催

柏の葉スマートシティの事例について、講師に

三井不動産株式会社 柏の葉キャンパスシティ・プロジェクト推進部長 河合淳也様をお招きし、事例学習と意見交換を行いました。

<今後の予定>

・9月13日: 研究会開催予定
豊田市の事例について

【問い合わせ先】 yoshidakn@nttdatacs.co.jp (吉田)

(4) PM 人材育成研究会

(主査: 池田 修一 富士ゼロックス)

基本的に 1 回/月のペースで研究会を開催しており、学会誌に隔月掲載する PM 人材育成研究会連載記事のテーマと、それ以外の個別テーマについて議論をおこなっています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

7 月度例会では、今後の個別テーマとして何を議論していくかの検討をしました。企業で実施するプロジェクトマネジメントについて、PM だけでなく、組織上の課題・問題、それに伴う人材育成等更にスコープを拡げて議論していくことを確認しました。

議論の中では、企業におけるプロジェクトの成立ちを特定の企業を例にして、「何故企業がうまくいかないのか」、「戦略の立案はきちんとできているか」、「それに伴った正しいプロジェクトが立ち上がっているのか」等の熱い意見交換がありました。今後この議論の内容でテーマを絞って、更に深く議論をしていきことになりました。

8 月度例会では、第 3 回の連載記事となる「自己組織化したチームづくり (仮)」の内容についての議論および確認を行いました。特に Agile に関して、基本的な考え方や各企業での取り組みや課題等、活発な意見交換が行われました。

なお、7, 8 月度では、日本で働く中国企業の方もゲスト参加され、定例会後の食事会も含めて、日中間の文化交流が行われました。

<今後の予定>

- 9月度 個別テーマ「企業上位層についてのプロジェクトマネジメント定着（予定）」について議論
- 10月度 第4回連載記事「プロジェクトでのモチベーションの維持・向上」についての議論・確認
- 11月度 個別テーマについての議論
- 12月度 第5回連載記事「多様なステークホルダーマネジメント」についての議論・確認
- 1月度 個別テーマについての議論
- 2月度 第6回連載記事「PMのリーダーシップの新たな視点」についての議論・確認
- 3月度 個別テーマについての議論

<成果物>

PM人材育成研究会 連載第2部

- ・第2部プロローグ（西沢）
- ・PMに求められる新コンピテンシー（池田）

【問い合わせ先】 pm-com@yahooogroups.jp

(5) パーソナルPM研究会

（主査：富永 章 PMラボラトリー）

セルフマネジメントと周囲への貢献目指した、個人のPMの知恵を追究しています。検討内容のおよそ半分は組織のPMと同じく手法やプロセスですが、もう半分は、自分のやる気、人や社会への貢献、習慣づくり、リーダーとしての心構えといった、いわば心の側面からなります。

目的と目標を構造的に掲げ、それに向かってリスク、ステークホルダー、スコープやポートフォリオなどのマネジメントを行い、段取りよく目標を達成する、良い成果は関係者と共有する、時間を有効に使い人生を充実させる、人を育てる、そういうことに有益な知恵の体系化をめざす活動となっています。

最近の技術進歩、環境変化により個人の精神面への新たなリスクやデモチベーション要素が出現しています。これらへの対応を含め、新たなアイデアとともに先人の他の知恵も利用しながら、人生を充実するための様々な検討が自由闊達に行われています。

書籍「パーソナルプロジェクトマネジメント」は引続き好評で、ロングセラーとなっています。

<過去2ヶ月の活動実績>

- ・6月20日：第54回会合（於 筑波大学東京）
情報共有と検討、自由発表
- ・7月7日：第55回会合（於 PMラボラトリー）
情報共有と検討、自由発表、秋季大会準備

<今後の予定>

- ・8月19日：第56回会合（於 筑波大学東京）
情報共有、秋季大会セッションと発表準備、自由発表
- ・9月18日：第57回会合（於筑波大学東京）
今年度活動のまとめ方、情報共有、自由発表

【問い合わせ先】 spm.ppmken@gmail.com

(6) メンタルヘルス研究会

（主査：前田 英行 日立公共システムエンジニアリング）

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

<過去2ヶ月の活動実績>

- ・6月19日：第45回定例会合開催
「ウェルネス」をキーワードに様々な観点から議論を展開しました。日系企業では「メンタルヘルス」対策としてメンタル不調に陥らないための限定した活動を行っているのに対し、外資系企業では社員の人生をより充実した豊かなものとするためにさまざまな対策を行っている事例などが紹介されました。一歩先を見据えた活動として、メンタルヘルス研究会としても積極的に検討していくことを確認しました。

- ・7月17日：第46回定例会合開催
いわゆる「新型うつ」について具体的な事例をベースに議論を展開しました。職場環境に適応できずうつ状態になっているケースや、認知発達のかたよりが背景にあるケースなどから、プロジェクトマネージャとして「新型うつ」にどう対処すべきか活発な議論を行いました。

また、9月のPM学会秋季研究発表大会での発表内容、及び10月開催予定の2013年度ワークショップ in 大阪について、準備状況を確認し、今後の計画を策定いたしました。

<今後の予定>

- ・9月18日：第47回定例会合開催予定

【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(7) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

（主査：梶山 昌之 DSR）

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト

計画への活用法を研究します。

<過去2ヶ月の活動実績>

3月までの活動でExcelによる統計活用書籍3冊を学習し、その成果をコンテンツとして蓄積しました。4月からはコスト見積り技法の知識体系であるCEBoK(Cost Estimating Body of Knowledge)を活用するための学習と研究の活動を開始しました。研究活動に当たり、日本コスト評価学会(JSCEA)より資料の提供などご協力いただいています。

<今後の予定>

13年度はコスト見積り知識体系(CEBoK)の内容を参照しながら、プロジェクトの定量的管理と見積りの応用面に重点を置いた活動を実施します。会合は1回/月を目安に会合を行いますので、ご興味ある方の参加をお待ちしております。研究会メンバーはExcel統計およびCEBoK研究などの活動で作成したコンテンツを社内の研修資料や論文作成などに活用できます。

(8) ものづくり R&D プロジェクトマネジメント研究会

(主査：久保 裕史 千葉工業大学)

「研究開発プロジェクト」で役に立つPMの知識体系構築を最終ゴールに据え、産学19名のメンバーが活動中です。

これまでに実施した過去6回の特別講演会や、先行研究・事例調査の結果から、R&DへPMを適用する際の問題は、必ずしも「ものづくり」に固有の問題ではなく、R&D全般に共通する問題であることが明らかになってきました。その主な原因は、PMBOKを初めとする現在のPM技法が、R&Dの初期段階では適用しにくいツールであるためと考えられます。例えば現在、研究段階でよく用いられている「フロントローディング」(研究の進展に合わせて、目標や納期等を変えていく手法)には、うまく適用できません。その一方、プロジェクト型組織固有の「暗黙知の継承」や、ステージゲート制がもたらす「研究開発者や技術者の行動や育ち方の歪み」の問題は、知識創造組織そのものである研究開発プロジェクトにおける本質的かつ最重要の課題となっています。

本年度中に、これらの問題解決に向けた必須要件を明らかにすべく、現在、我々は、①啓蒙WG、②プロセス定義・ツール、③ステージゲート、④人材育成、の4つのワーキンググループに分かれて、連携しながらこの問題解決に取り組んでいます。その具体的活動の内容や、これまでに得られた成果は、今年度の秋季研究発表大会やProMACで発

表する予定です。

<過去2ヶ月の活動実績>

- ・6月20日：第7回定例会を開催

グロービス経営大学院 金子浩明教授をお招きし、「ステージゲートの作用・反作用」を講演頂きました。

- ・8月22日：第2回WGリーダー会と第8回研究会定例会を開催

秋季発表大会とProMACでの発表内容を確認。2月のワークショップ開催に向けた段取りを討議。

<今後の予定>

- ・9月5日：秋季大会で活動状況報告。
- ・10月24日：第9回定例会(於 千葉工大津田沼)
- ・11月6～8日：ProMAC2013で活動状況報告。
- ・12月19日：第10回定例会(於 千葉工大津田沼)
- ・2月14日：第1回ワークショップ(フォーラム)。

【問い合わせ先】hiroshi.kubo@it-chiba.ac.jp

(9) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会 (主査：本間 利久 北海道大学)

2012年10月に発足した新研究会です。研究会名称のフロネシスは、実践的知恵(practical wisdom)と訳され、倫理や情動、人間の行為などが加味された総合的な知恵を意味しています。また、プロジェクトも、知識、技術、実践の総合知であることを考えると、プロジェクトマネジメントの知識・技術を実践の場で活かすには、単体のプロジェクト(PMBOK®ガイド)を取り巻いている世界(①人間関係のスキル②一般的なマネジメント知識・スキル③プロジェクト環境の理解④適用分野の知識・標準・規制)を考慮する必要があります。このことがプロジェクトマネジメントの賢い実践につながります。

そのため、①②③の組織文化の違いの理解、乖離を埋める方策および新体系の創出・実践的知恵を探究し、その研究成果を外部に発信していくことを研究会の目的としています。

<過去2ヶ月の活動実績>

- ・6月20日：第7回研究会開催(於(株)アスカブラニング)

研究委員会の審議結果を基に、会議名称の変更、ワークショップの位置づけ、講演者の一部変更の提案が本間主査から提案がありました。また、富士通韓国(株)のPMの現状及びワークショップに対する要望事項についての説明が本間主査からあり、研究会の今後の活動にその趣旨を反映させることにしました。具体的な内容は、永谷副主査から原案を企画・提案してもらうことにし

ました。最後に、ワークショップのパンフレット作成（写真、キャンパス地図、講演概要、申込方法等）について、実務的観点から柴垣委員の検討結果の報告があり、その対応方法を確認しました。

・7月18日：第8回研究会開催（於（株）アスカブラニング）

9月16日韓国で開催予定のワークショップ2013 in ソウルに関する状況の説明があり、司会進行担当を中村幹事とし、参加者の応募方法・メールアドレス等を検討した結果、パンフレットの作成記載内容の一部修正・追加することにしました。また、ワークショップ開催にあたり必要とされる関係書類についての説明が本間主査よりあり、昨年度研究会委員会で実施したワークショップ開催の方法を基本的に踏襲することで了承されました。全員参加型情報交換会の運営については、出席者から自由な発想による様々なアイデアが出されました。

プロジェクトマネジメント学会秋季大会発表内容について検討した結果、今後の研究会の活動方向を見据えた研究会活動のロードマップの作成する必要性から、第1～8回研究会例会の活動をまとめ、それを基にマインドマップを中村幹事が作成し、発表内容の基礎とすることにしました。

引き続き、風土と人間・文化について、和辻哲郎著：「風土－人間学的考察」（岩波書店、昭和10年）の書籍紹介が平石委員からあり、風土の基礎理論、類型化、モンスーンとインド文化の伝統・欧米化、イスラム教のお祈りと時間と場所・時間、

ラマダン（断食）、沙漠と砂漠の違い、乾きと戦闘的生活様式、一神教と多神教、世界のフラット化と文化の一樣性、気候が文化を創る等の自由な活発な意見交換が委員間でされました。最後に、ソウル城郭にみるソウルの智（フロネシス？）について、風水説によるソウル城郭の建設、ソウル城郭の門の名称と儒教5常の関係、五行思想による肅靖門と「智」との関係の説明、ソウルの都市計画の歴史的経緯の紹介が本間主査よりありました。

<今後の予定>

・9月4日：第9回研究会開催予定（於（株）アスカブラニング）

ワークショップ2013 in ソウルのプログラムおよび役割分担および参加者等を確定後、プロジェクトマネジメント学会秋季大会での発表内容を検討し、書籍・資料等の紹介を行う予定です。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

研究委員会委員長 藤原 良一
fujihara-ryoichi@mdis.co.jp

研究委員会委員 吉田 賢吾
yoshida-kengo@mdis.co.jp

研究委員会委員 赤羽根 亮子
akabane-akiko@mdis.co.jp